

【資料】

平成29年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会 および東北育種基本区特定母樹等普及促進会議

上田 雄介¹

9月11日、森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所において平成29年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会（以下、育種分科会という）および東北育種基本区特定母樹等普及促進会議（以下、特定母樹等普及促進会議という）が開催された（図-1）。

今年度は林野庁、当基本区の関係機関から43名が出席した。以下に会議の概略を報告する。



図-1 会議風景

育種分科会

林野庁・林木育種センターからの説明

林野庁からは各種補助事業について、林木育種センターからは林木育種推進計画の策定についてや、花粉症対策品種の開発推進、無花粉スギの品種開発にかかる情報提供や原種苗木の配布について等の説明があった。

当基本区における林木育種事業の推進について

初めに、新たな「森林・林業・木材分野の研究・技

術開発戦略」が策定された事を受け、東北育種場より「東北育種基本区林木育種推進計画」の改定について説明を行い、参加者各位より了承をいただいた。

続いて以下の報告を行った。

①スギ・カラマツ第二世代精英樹の選抜について、エリートツリーとしてスギ69個体、カラマツ20個体を選抜した。特定母樹としてスギ26個体、カラマツ9個体の指定を受けた。今後も開発を進めて行く。

②スギ雪害抵抗性品種について、当基本区の西部育種区各県においてスギ雪害抵抗性品種で構成されたミニチュア採種園の造成が進んでいる。当场では、雪害抵抗性第二世代品種の開発に取り組んでいる。

③当基本区各県及び当场における昨年度のマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選抜及び接種検定について、各県で計62本の抵抗性クロマツ候補木を選抜した。接種検定の実施状況では、アカマツ76クローン、クロマツ17クローンについて二次検定を実施し、このうちアカマツ4クローンがマツノザイセンチュウ抵抗性品種として認定された。

④各機関に対する原種配布計画について、特定母樹を含めた原種配布は各県から提出される種苗配布要望計画に基づき計画的な配布を行えるよう生産に努めて行く。

⑤各県の通常・ミニチュアタイプの採種園等の造成について、これまでに開発した各種品種等が導入されており、今後も優良種苗生産に向け造成・改良を進めていく。

⑥林木遺伝資源の収集・保存は概ね計画通りに事業を進めている。林木遺伝子銀行110番については、昨年度までに計28件が当事業への申し込み者に返されている。

各機関からの提案・要望事項について

東北森林管理局から東北育種場や各県に対し、花粉

¹うえだゆうすけ 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

症対策苗木の生産推進、特定母樹等の普及、コンテナ苗のコスト低減について要望があった。

岩手県からは、種苗配布について、カラマツ次世代精英樹の迅速な配布や花粉の少ないスギ品種の配布量の増大、カラマツ次世代精英樹の育種基本区を越えた配布の円滑な実施、特定母樹等に対して長期的な視点で助成を継続して欲しい等の要望がなされた。

宮城県からは、カラマツ種子の生産体制整備について、着花促進等の技術開発や次世代精英樹の種苗配布を一層推進、東北地方に適した早生樹のコンテナ苗化についての種子の提供及び技術指導の要望がなされた。

また、12月に開催される東北育種場技術部会に向け、秋田県より採種園の改良・更新にかかる各種技術マニュアルの見直しと改訂版の作成について提案があった。

特定母樹等普及促進会議

林野庁から、特定母樹の指定状況、特定母樹とエリートツリーについての説明があった。

東北育種場からは、東北育種基本区における特定母樹等について、平成28年度までに特定母樹45系統・エリートツリー89系統が指定された旨報告を行った。また、開発された品種の普及が促進されるよう、育苗等の品種の普及に関連する技術情報の交換等を行う林木育種連携ネットワークについての説明があった。